

進んで活動する姿

続けて最後までする姿

目的・目標を持って活動する姿

友だちと学び合う姿

深く考える姿

実践事例 小学部／教科別の指導：算数

『自分で深く考えて、ちょうど金額や多めの金額をそろえて支払ったり、おつりの計算をしたりしよう』

1. 生徒の実態と望む姿

- ・小学部3年生女子
- ・持ち金が百円硬貨2枚、十円硬貨5枚、一円硬貨2枚で235円を支払うとき、「足りない」「分からない」と言う
- ・持ち金が千円札9枚、百円硬貨9枚、十円硬貨2枚、一円硬貨9枚で5360円を支払うとき、「ろくじゅうえんないから」と言って千円札を6枚を出す

そこで本題材では以下の望む姿を設定した

- 金種や枚数が足りず、ちょうど金額を支払えないときに、百円硬貨と十円硬貨10枚、十円硬貨と一円硬貨10枚が等価関係ということが分かり、十円硬貨が足りないときは百円硬貨を1枚多めに、一円硬貨が足りないときは十円硬貨を1枚多めに出して支払う

2. 教材の概要 教材：『おつかい買い物ゲーム』

- ・お金を支払う必要性を感じられるように、おつかいメモに書いてある商品を買うことでポイントを獲得できる仕組み
- ・友だちと学び合ったり、十(百)円硬貨1枚と一(十)円硬貨10枚の等価関係についての理解を深めたりできるように、お金を支払う役とレジ役(お釣りの計算をする)を設定した

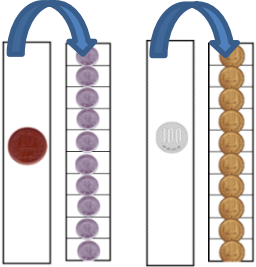
3. 授業のポイント

ポイント1 指導内容を確実に理解するための教具と働きかけの工夫

【百円硬貨と十円硬貨10枚、十円硬貨と一円硬貨10枚が等価関係であることを理解し、ちょうど金額で支払えないときに1つ上の位の硬貨を1枚多めに出すと支払えることを理解するためにはどうすればいいかな？】

- ・等価カードで十円(百円)硬貨1枚には、足りない〇(〇十)円分入っていることを操作して確認する
- ・仕分け容器で足りない硬貨を確認し、足りない硬貨は出さずに1つ上の位の金種を1枚多く出すことを確認する
- ・発展の支払いの場面で、ちょうど金額で支払えないときに、十円(百円)硬貨を1枚多く出した理由を問う

うらがえす うらがえす



<等価カード>



<仕分け容器>
百の位から順にそろえ、足りない位の1つ上の位を1枚多く出すことを理解しやすいようにした



どうして十円(百円)を1枚多く出したの？



一円(十円)が足りないけど、十円(百円)1枚に〇(〇十)円分入っているから

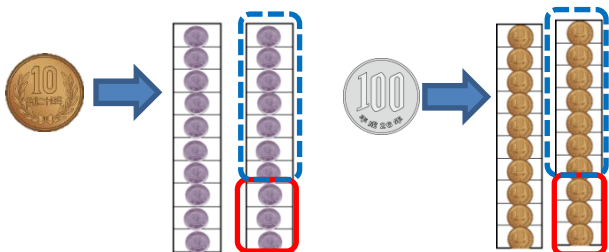
<発展の支払いの場面>

授業構想チェックシート 内容チェック 教具について③⑤ 働きかけについて②⑤

ポイント2 学習した内容を、より深く考えるための学習活動の工夫

【十(百)円硬貨には一(十)円硬貨が10枚含まれていることの意味を深めるためにはどうしたらいいかな？】

- ・レジ役を設定し、等価カードを活用しながら支払った代金に対してのおつりを計算する活動を設定する
- ・1枚多く出した十(百)円硬貨を両替し、足りない〇(〇十)円分もらって、残りはおつりになることを操作して確認する



多くもらった1枚を、一(十)円硬貨10枚に両替して…
足りない3(30)円分をもらって…
おつりは7(70)円だ

授業構想チェックシート 内容チェック 学習活動の工夫③